



第46回北海道小学校教育研究大会  
令和6年7月26日(金)

## I を磨く子ども

4学年 国語科

気持ちの変化を読み、考えたことを話し合おう  
「ごんぎつね」

### 「自分と違う問いの人に聞いたら兵十もごんも後悔しているのが分かったよ。」

国語科では、教材や言葉に関わりたくなるように、自分なりの視点（問いや読み方を選択すること）で言葉に着目することを大切にしていきます。登場人物の気持ちの変化を捉えるために、登場人物の気持ちが大きく動く場面を中心に授業を構成しました。そして、自分なりに「なぜ、ごんは明るく日もくりやを持っていったのかな。」などの問いをもち追究していききました。初めは、「ごん」か「兵十」どちらかの立場での問いでしたが、追究が後半になってくると、立場を越えていろいろな人の考えを求めて交流するようになりました。自分が考えた問いだからこそ解明したいという思いが強くなり、友達と交流するからこそ自分にはない気づきが生まれ、問いの解決に楽しさが生まれます。言葉を介して交流する姿から自分の言葉への考えが深まっていく姿を目指します。

私たちは、よりよい自分を目指し、自分らしさを発揮する「I を磨く子ども」を育てるために、子ども自身が学びを創ることを大切にしています。「材の吟味」「自己選択・自己決定」「子どもの追究と教師の立ち位置」の3つの学びの要素に着目し、子ども主語の授業の在り方を探っていきます。

国語科

## 4年 気持ちの変化を読み、考えたことを話し合おう

「ごんぎつね」より

A group of students in a classroom are gathered around a table, each using a laptop. One student in the center is wearing a VR headset and holding a controller, appearing to be in a virtual environment. Other students are looking at their screens or the VR user. The classroom setting includes desks and other students in the background.

| ごんぎつね語りつづーるタクト |                   |                           |                                                                                                                                       |
|----------------|-------------------|---------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                | 語りが続けられる“だけ”分かった原 | 語り継がれるわけ<br>今日の振り返り       | 問に対して<br>分かったこと                                                                                                                       |
| 10月<br>25日     | 50%               | どうして兵十は、火縄銃をばたりと取り落としたのか？ | 「あんなに大事な道具なのに落とすとは。」「これって、おれもよくある失敗だ。」「でも、大事なものだから、絶対に落とさないようにしよう。」<br><small>（このあたりで、おれもよくある失敗だ。でも、大事なものだから、絶対に落とさないようにしよう。）</small> |
| 10月<br>26日     | 50%               | 人になにかしてあげるのはいいことということ。    | 「はっかやと喜んでくれたらいいな。」「火縄銃を持っててまって、前まで打ってしまったんだけど、思ったより思っている。」<br><small>（はっかやと喜んでくれたらいいな。火縄銃を持っててまって、前まで打ってしまったんだけど、思ったより思っている。）</small> |
| 10月<br>27日     | 55%               | いたずらをしたら後悔する。             | 悔を持ってきたけれど、ごんたんとみたら、よかったんだ、と思ったと思います。                                                                                                 |
| 10月<br>30日     | 50%               | 分かんなくなってきました。             | 兵十は薬をくれたのごんを打ったってすごい気持ちだと思います。                                                                                                        |

## 要素2

自己選擇・自己決定

## 要素 1 材の吟味

### 要素 3

The top photograph shows a large green chalkboard with a grid of papers and sticky notes. The papers are arranged in a grid, with some papers having yellow sticky notes attached to them. The sticky notes contain the text 'おはよう' (Ohayou) and 'こんにちは' (Konnichiwa). To the right of the main grid is a smaller board with the word 'こん' (Kon) written on it.

The bottom photograph shows two smaller boards. The left board has the text 'おはよう' (Ohayou) and 'こんにちは' (Konnichiwa) written on it. The right board has the text 'おはよう' (Ohayou) and 'こんにちは' (Konnichiwa) written on it. A yellow sticky note with the text 'おはよう' (Ohayou) is attached to the right board.



# 国語科 5年「本は友達/この本、おすすめします」より

読書単元「本は友達」と書くこと単元「この本、おすすめします」とを複合単元とし、子どもが「作家らしさ」を追究できる時間を十分に保障しました。

子どもが活動に浸ることができる単元構成の基、自ら「作家らしさ」に気付くことができるように、同作者による別作品の中から、特に「題名」や「視点」、「人物像」や「情景に込められた意味」等、共通点がある3作品を選定しました。子どもは、その中から1作品を選択し、「カレーライス」と比較しながら読めるようにしました。選んだ作品が同じ人同士で協働する中で、「作家らしさ」を見いだしていきました。また、別作品を選んだ人にも自ら関わりながら、自分の考えをより確かなものにしたり、新しい考えを得たりなど、子ども一人一人が自分なりに「作家らしさ」を追究することができました。



## 要素2 自己選択・自己決定

本時では、単元導入時に立てた学習計画の基、前時までの自分の学びを振り返りながら、1時間の学びの方向性を自己決定しました。「作家らしさ」を見付けるために誰と学ぶのか、どうやって学ぶのか、何に注目して追究を進めるのかを自覚することで、子ども一人一人が明確に目的意識もちながら、追究を始めました。

教材を基に、「作家らしさ」を見付ける視点を獲得した後は、自分で決めた作家の本を紹介しました。おすすめの作家だけでなく、紹介する相手を自己決定できるようにしたことで、読書の苦手な子どもも、自分が選んだ作家に合わせて相手を決めることができました。その決定を学級全体で共有することにより、紹介相手が同じ人同士で、表現の仕方の工夫を見付けようとする姿が見られました。



## 要素1 材の吟味

## 要素3 子どもの追究と教師の立ち位置

「カレーライス」と自分が選んだ作品を比べながら追究しました。追究が進むにつれ、その二つの作品の比較に没頭する子どもが多くなります。そこで、子どもの追究の様子を見取り、選んだ作品が違うのに、見付けた「作家らしさ」が同じ子ども同士を意図的につなげる関わりをしました。また、他の学年の教科書を活用し、別の作者の作品と比べながら追究している子どもの発見を共有する関わりをしたことにより、子どもの追究は加速していきました。

また、子どもとタイミングや方法を決めた全体交流の場では、子どもそれぞれが見付けた「作家らしさ」を一覧で共有した上で、気付いたことを問うことで、自分の考えに自信をもつだけでなく、次時の追究へのきっかけを引き出すことができました。

